

科目名	ピアノ奏法研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

ピアノ演奏の基本の技術を確実にマスターし、段階を追って高度なテクニックを身につけ、バロック、古典、ロマン派、近代、現代に及ぶ数多くの作品を通じて各自の個性、特性を生かした創造的表現を高める。

●履修上の条件及び履修の方法

時間厳守。
個人レッスンにつき、欠席する場合は必ず事前に各担当教員に、その旨連絡をする。

●試験方法及び成績評価方法

- (Ⅰ) バロックの作品より
(J. S. Bachの平均律クラヴィーア等)
- (Ⅱ) 古典派のソナタより
- (Ⅲ) ベートーヴェンのソナタより
- (Ⅳ) ロマン派の作品より
- (Ⅴ) F. Chopinの練習曲及び前奏曲
- (Ⅷ) 自由曲

※(Ⅴ)と(Ⅶ)は定期実技試験は実施せず、各担当教員の評価による。

※実技試験の評価は、レッスンで学んだことの習熟の度合、音楽の理解の度合、演奏技術、表現力などを総合的に判断して行います。

●その他

テキストは、それぞれの学生が全く違う速度で進んでいるので、その都度担当教員との相談で決める。
*参考文献：学生の能力、個性に応じて選定する。

●授業内容

(1～4年次)
Ⅰ～Ⅷ 学生の個性、能力に応じたピアノ作品を通してその作品の解釈と奏法を学ぶ。

科目名	管楽奏法研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

多種多様な管楽器の演奏の習得、その楽器のもっている特性を生かし、その学生の技術の程度に合わせた方法で指導を行う実技個人レッスンとなります。そして、その奥義をつかんでほしい。

●履修上の条件及び履修の方法

個人レッスンにつき時間厳守。止むを得ず欠席の場合は事前に担当教員にその旨を連絡すること。

●試験方法及び成績評価方法

定期実技試験により評価。

4年次秋学期定期試験の演奏時間は、12分程度とする。
その他の年次の学生の演奏時間は、6分程度とする。

1学期期間における出席日数が3分の2に満たない場合、出席不足とみなし、試験を受けることはできません。

●その他

●授業内容

(1年次)
専攻楽器における学生のレベル、個性等を見極め、特に基礎的な技術の向上をめざす。
併せて豊かな耳を養うことを中心に進める。
音楽の必要性について考え、偏らない素養を身につける。
初級エチュードの使用。
伴奏（ピアノ）をつけることで、初歩的なレパートリーを加える。
異文化とその歴史に関心をもつことができるようにする。

(2年次)
さらなる音楽の向上、技術の向上をめざす。
初級に続くエチュード。
レパートリーの強化をめざす。
豊かな表現方法を身につける。

(3年次)
中級エチュードに進む。
個々にテクニックの向上をめざし、レパートリーを加える。
音楽的表現、解釈等さらなる発展をめざす。
オーケストラレパートリーの拡充。

(4年次)
上級エチュードの完成。
難易度の高いレパートリーの研究、演奏。
オーケストラレパートリーの充実。
楽器演奏指導法を学ぶ。
地域に根づいた活動、教育について考え、社会の中で活躍できるようにする。
卒業後の進路に沿った指導をする。

科目名	弦楽奏法研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

少しでもうまくなる。

●履修上の条件及び履修の方法

日々練習すること。

●試験方法及び成績評価方法

試験による採点

●その他

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 しっかり調弦する。
- 3回 理想の音について考える。
- 4回 自分の音をよく聴く。
- 5回 自分の音を作る。
- 6回 自分の楽器の特質を研究する。
- 7回 作品にふさわしい音色、作曲家固有の響きを研究する。
- 8回 弓のスピードや圧力に変化をつける。
- 9回 取り組んでいる課題曲の調性を把握し、その調の音階を重点的に練習する。
- 10回 音階の練習に変化をつける（テンポ・リズムなど）。
- 11回 さらに音会の練習を通常と異なるリズムや弓使いで練習する。
- 12回 課題曲の指使いを再考する。
- 13回 ヴィブラートを研究する。
- 14回 メカニカルな動きを集中的に練習する。
- 15回 作品の流れをつかむ。

科目名	打楽奏法研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

技術の向上を目指し、各学年ごとの授業目標を定め、それに従い授業を進める。

●履修上の条件及び履修の方法

レッスンには休むことなく出席し、各自の技能を高めるため予習を充分にしておくこと。

●試験方法及び成績評価方法

各学年春学期（該当学年）、秋学期に試験を課す。その各採点教員の平均により評価する。

●その他

●授業内容

- （1年次）
各自専攻の基礎的な技術を身につけるため、初歩的なことから順次その難易度を高めて行きたい。
- （2年次）
1年次で習得した技術の上に更にテクニックエチュード及び曲を選び、各個人の進度にあわせソロ及びアンサンブルの研究をする。
- （3年次）
高度の技術を目指し、曲も近代、現代の曲にも積極的に取り組み、更にその音楽性を深めて行きたい。
- （4年次）
各学年で取り組んできた技術を生かし、各個人の音楽性を深め、その集大成として卒業演奏会を一つの目標として授業を進めたい。

科目名	邦楽演奏研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

<箏>

近代箏曲の祖と呼ばれる、賢順、八橋檢校から現代までの400年、その間に生れた古典に立脚し真実の基礎力を築き上げ、次年次に要求される、高度な音楽性等に答えられる力を養うこと授業目標とする。

<三味線>

基礎的な三味線演奏技法の習得。
楽器の特性を熟知し、美しい音色で演奏することを目標とする。
演奏曲の内容を理解し、三味線音楽に対する知識も身につけ、教育現場に対応出来る能力を身につける。

<尺八>

我国での尺八音楽（普化尺八）は400年を超えて精神性を基に発達して来ている。現代ではその独特な音色や音楽性が注目され、数多くの創作活動にも取り入れられている。授業では、その独自性を失うことなく次年次に要求される更に高度な音楽性等に答えられる力を養うことを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

<箏>

生きる上でも、音楽を学ぶ上でも、最も必要な心得はリラックスに尽きると私は考えます。

考え方も、生き方も、練習の仕方も、全て、リラックス、言い換えれば、自然体を旨として、授業を受けて欲しいと考えています。

<三味線>

時間厳守。
個人レッスンにつき欠席の場合は必ず担当教員に連絡する事。

<尺八>

物事習得の為には集中力が必要であります。その能力を高めるには集中力の隙間、つまり脱力を挟むことで力の躍動が持続可能となり、更なる能力向上に繋がると考えています。一言で云うならば、「自然体になる」と表します。

●試験方法及び成績評価方法

<箏>

春、秋学期の終了時に演奏会形式による採点。

<三味線>

春、秋学期の終了時に演奏会形式による採点。

<尺八>

春、秋学期の終了時に演奏会形式による採点。

●その他

<箏>

基本的には、宮城道雄が著わした楽譜が最も適切な教材として本学で使用します。
尚、副教材としては、沢井忠夫作品及び、大日本家庭音楽会発行の楽譜を適宜進行状況に応じて取り上げます。

書籍名：箏曲選集Ⅰ～Ⅳ 著者名：宮城道雄 出版社：邦楽社

<尺八>

日本音楽の将来を見通す能力と、独自の音楽性を繋ぐ役割を本校卒業生はその責任を果す使命が有り、その力と人間性を育むことを、授業の全体目標として掲げるものであります。

●授業内容

<箏>

(1年次)
最も基本的で且つ、最も音楽の深さを持つ、八橋檢校作品を習得する。
手事物箏曲と呼ばれる多くの曲のうち、比較的初期段階の作品を習得する。
新日本音楽と呼ばれる明治期から昭和初期の作品の習得により、技術的進歩を図るものとする。

(2年次)

古典の中の中級程度の地唄物箏曲の習得。

(3年次)

宮城曲の習得により高度のテクニックを身につける。

(4年次)

卒業後、演奏家並びに教授者として活躍する為に、必要且つ、実践的な曲を中心に習得する。

<三味線>

(1年次)

演奏の基本となる読譜。
基礎技法の習得。正しい音程感覚を身につけ、楽器の特性を理解する。

(2年次)

更なる基礎技術の向上を目指す。
基礎となる曲を学ぶ。

(3年次)

難易度の高い曲を学ぶ。
曲の核になるソロの部分によりよい音質で弾けるよう学ぶ。

(4年次)

演奏者のリーダー（タテ三味線）としての演奏法を学ぶ。
自身の更なる技術の向上を目指すとともに、指導者としての資質も身につける。

<尺八>

(1年次)

最も基本的で、独自の音楽性を持つ、古典本曲「調子」を習得する。
西洋音楽とは異なる音楽性習得の為、古伝三曲と呼ばれる「虚空」、「虚空」、「霧海篋」を吹奏習得。

現代の音楽事情の要請により、中世ヨーロッパの器楽曲などを尺八を通じて習得。

(2年次)

地無し尺八の製作と演奏法を習得し、更にその楽曲を数曲習得する。
独自の音楽性と世界観を追求し、洋の違いを演奏に依り習得する。

(3年次)

古典尺八と呼ばれるところから出発し、現代尺八の位置との比較を様々な曲で体験習得する。

尺八はその独自性から即興演奏を行うことがしばしば有り、その目的の為、ひとつの題材から展開演奏が出来る力を養う授業を行う。

(4年次)

卒業後、演奏家並びに、よき教授者として活動する為に、必要且つ、進歩的な曲を中心に習得する。

科目名	三絃実技 I～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

邦楽演奏研究 I～VIII と基本的に同じ目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

三絃の履修上、最も重要なことは、「型」である。いかに肩の力を抜き、背筋を正し、自然体で三絃を弾くことが出来るという一点である。型が出来れば必ずから良い音が生れる。

(三絃履修の必要備品)
撥は2年次までは、先継べつ甲の撥で可、3年次進級時までには丸撥を用意する事とする。

●試験方法及び成績評価方法

春、秋期の終了時に演奏会形式による採点。

●その他

- テキスト (必携)
- ◀No.1. ▶
書籍名：三絃小曲集 著者名：宮城道雄 出版社：大日本家庭音楽会
- ◀No.2. ▶
書籍名：六段 著者名： ” 出版社： ”
- ◀No.3. ▶
書籍名：夕顔 著者名： ” 出版社： ”

●授業内容

(1年次)
初心者に関しては、「宮城道雄」著の小曲集の履修から始め、三絃の基礎力を習得する。
経験者に関しては、初期の手事物地唄の作品の習得をする。

(2年次)
中程度の手事物の習得。

(3年次)
宮城曲と難易度の高い手事物の習得。

(4年次)
卒業後、演奏家並びに教授者として活躍する為に必要且つ、実践的な曲を中心に習得する。

科目名	長唄実技 I～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

基礎的な長唄の発声の習得。
演奏曲の内容を理解し、長唄に対する知識を身につけ、教育現場に対応出来る能力を身につける。

●履修上の条件及び履修の方法

時間厳守。
個人レッスンにつき、欠席の場合は必ず担当教員に連絡する事。

●試験方法及び成績評価方法

1学期間における出席日数が3分の2に満たない場合は出席不足による失格となります。

●その他

●授業内容

(1年次)
演奏の基本となる読譜。
基礎となる長唄の発声の習得。

(2年次)
基礎となる曲を学ぶ。
西洋音楽との発声の違いについて学ぶ。

(3年次)
長唄の代表曲を学ぶ。
曲の核となるソロパートを、曲の内容を理解した上で演奏出来るよう学ぶ。

(4年次)
演奏者のリーダー (タテ唄) としての演奏法を学ぶ。
自身の更なる技術の向上を目指すとともに、指導者としての資質も身につける。

科目名	他様式尺八実技Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

我国での尺八音楽（普化尺八）は400年を超えて精神性を基に発達して来ている。現代ではその独特な音色や音楽性が注目され、数多くの創作活動にも取り入れられている。授業では、その独自性を失うことなく次年次に要求される更に高度な音楽性等に応えられる力を養うことを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

物事習得の為には集中力が必要であります。その能力を高めるには集中力の隙間、つまり脱力を挟むことで力の躍動が持続可能となり、更なる能力向上に繋がると考えています。一言で云うならば、「自然体になる」と表します。

●試験方法及び成績評価方法

春、秋学期の終了時に演奏会形式による採点。

●その他

日本音楽の将来を見通す能力と、独自の音楽性を繋ぐ役割を本校卒業生はその責任を果す使命が有り、その力と人間性を育むことを、授業の全体目標として掲げるものであります。

●授業内容

（1年次）
最も基本的で、独自の音楽性を持つ、古典本曲「調子」を習得する。
西洋音楽とは異なる音楽性習得の為、古伝三曲と呼ばれる「虚霊」、「虚空」、「霧海篋」を吹奏習得。
現代の音楽事情の要請により、中世ヨーロッパの器楽曲などを尺八を通じて習得。

（2年次）
地無し尺八の製作と演奏法を習得し、更にその楽曲を数曲習得する。
独自の音楽性と世界観を追求し、洋の違いを演奏に依り習得する。

（3年次）
古典尺八と呼ばれるところから出発し、現代尺八の位置との比較を様々な曲で体験習得する。
尺八はその独自性から即興演奏を行うことがしばしば有り、その目的の為、ひとつの題材から展開演奏が出来る力を養う授業を行う。

（4年次）
卒業後、演奏家並びに、よき教授者として活動する為に、必要且つ、進歩的な曲を中心に習得する。

科目名	声楽研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

自然な呼吸法による正しい発声を習得すると共に、正しい様式感、豊かな表現方法を身につける。

●履修上の条件及び履修の方法

- ① 体調管理に留意して、健康な状態で臨むこと。
- ② 時間厳守。
- ③ 個人レッスンにつき、欠席する場合は必ず事前に各担当教員にその旨連絡すること。

●試験方法及び成績評価方法

- ① 定期実技試験により評価する。
(ただし、3・4年次春学期は各担当教員が平常点により評価する。)
- ② 1学期間における出席日数が3分の2に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することは認められない。

●その他

●授業内容

（1年次）
学生の個性、進度をふまえた上で、主に基礎となる自然な発声法を体得させる。古典イタリア歌曲等により具体的に声楽作品に触れ研究していく。

（2年次）
ひき続き基礎となる発声法の習得をしながらイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲等々、多くの作品に触れて、音楽性を身につけてゆく。

（3年次）
更なる声の成熟を求め、表現力も養う。歌曲のみならず、オペラアリアも取り入れていく。

（4年次）
自然な発声法により、無理のない声で幅広く、近・現代までの歌曲等を取り上げると同時に、各々の声に合ったオペラアリアにも多く触れ、その表現方法を拡大させる。

科目名	歌唱研究 I ～VI	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2,3

●授業科目の目標

自然な呼吸法による発声を習得する。学生の個性、レベルに応じて主に基礎技術の向上に努める。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①体調管理に留意して、健康な状態で臨むこと。
- ②時間厳守。
- ③個人レッスンにつき欠席する場合は、必ず事前に各担当教員にその旨連絡すること。

●試験方法及び成績評価方法

- ①定期実技試験により評価する。
- ②1学期間における出席日数が3分の2に満たない場合は出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することは認められない。

●その他

●授業内容

(1年次)
学生の個性、進度をふまえた上で、主に基礎となる自然な発声法を体得させる。
演奏の基本となる読譜力の向上。

(2年次)
ひき続き基礎となる発声法の習得をしつつ、歌曲等、多くの作品に触れて、音楽性を身につけてゆく。

(3年次)
更なる声の成熟を求め、表現力も養う。
歌曲等の他、ミュージカルナンバー等も取り入れることがある。

科目名	舞踊・演劇研究 I ～IV	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	3,4

●授業科目の目標

ミュージカル、ストレイトプレイ作品の根幹となる歴史的な時代背景、人物像、役柄の心理、人間関係、ドラマツルギーを理解し、表現出来るようエチュードとして学び、訓練する。
(シーン抜粋)

●履修上の条件及び履修の方法

時間厳守。
個人レッスンにつき、欠席する場合は必ず担当教員にその旨連絡する。

●試験方法及び成績評価方法

積極的な授業参加、課題への取り組みと成果、出席を含む平常点の総合による。

●その他

●授業内容

(3年次)
下記の作品等から学生の能力、個性に応じて選定する。主に、演じることの基礎となる戯曲の把握とキャラクターに応じた演技方の訓練と追究。主に現代劇、ミュージカル作品を中心とする。

(4年次)
下記の作品等から学生の能力、個性に応じて選定する。3年次に学び、獲得したものから、更に深めて豊かな役作りが出来るよう訓練と追究。現代劇の他、ミュージカル、古典、近代劇からの抜粋等幅広く学ぶ。

- 作品等
- ・ギリシア劇 (グリークスより)
 - ・シェイクスピア作品 (マクベス、ロミオとジュリエット等)
 - ・近代劇 (チェホフ、イブセン作品等)
 - ・現代劇
(エルサレム、テネウリアムズ、清水邦夫、福田善之、別役実、作品他)
 - ・ミュージカル作品

科目名	作曲研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

各学年ごとに決められた提出作品に向けて、基礎的な知識とその応用が出来るよう指導する。

●履修上の条件及び履修の方法

欠席する場合は、必ず担当教員にその旨を連絡すること。

●試験方法及び成績評価方法

提出作品（楽譜と音源）による審査。ただし、卒業作品については楽譜のみ。

●その他

教材については、担当教員の指示を受けること。

●授業内容

個人レッスンによる。
学生の習熟度に合わせて、和声、対位法の基礎を固め、楽器法や楽曲分析も取り入れながら、古典から現代までの作曲作品研究を行う。

<提出課題>

(1年次)

ピアノソロ作品

(2年次)

ピアノを伴った独奏楽器による編成の作品

(3年次)

春学期：学内作品（自由）

秋学期：歌曲

(4年次)

卒業作品

科目名	コンピュータミュージック制作研究Ⅲ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	2,3,4

●授業科目の目標

現代社会において刻々と進化するコンピュータ及びソフトウェアを用い、アカデミックな音楽知識を基盤とした作曲及び楽曲制作能力を育成する。

●履修上の条件及び履修の方法

個人レッスンにつき、欠席する場合は必ず事前に各担当教員に、その旨を連絡する。

●試験方法及び成績評価方法

各学年の規定に応じた楽曲提出を行い、それらの作品を教員が審査する。

●その他

●授業内容

(1年次)

学生の音楽能力や知識のレベルに応じて基本的な作曲能力の習得を目指す。

制作においてはMIDIデータによる楽曲制作を基本とする。

(2年次)

更なる作曲能力の習得を目指す。

制作においてはオーディオデータを取り入れたMIDIデータによる楽曲制作を行う。

(3年次)

学内演奏会を目指し楽器のレコーディングを取り入れる。また、生楽器に関する知識を深め、アカデミックな音楽の中から多くを学ぶ。

制作においてはレコーディングを伴ったオリジナルな楽曲を制作する。

(4年次)

四年間の集大成ともいえる卒業作品の制作を目標とした学習をする。

学生それぞれの方向性に応じた、個性ある楽曲制作を目標とする。

科目名	電子オルガン演奏研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

基本的な鍵盤テクニックと電子オルガンの演奏テクニックを身につける。
編曲・作曲技法、電子音楽のための知識を身につけ、音楽表現をする。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

実技試験により評価する。
出席日数が2/3に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することはできません。

- (Ⅰ)・既成アレンジのクラシック作品 演奏時間：5分程度
(レジストは本人作成のものとする。) (自作・自編も可)
- (Ⅱ)・既成アレンジのポピュラー作品 演奏時間：5分程度
(レジストは本人作成のものとする。) (自作・自編も可)
・スケール…# b 3つまでの長短調 (ピアノで演奏)
・課題編曲演奏…コードネーム付きメロディー課題
- (Ⅲ)・クラシック作品 演奏時間：5分程度
(自作・自編が望ましい)
・モチーフ課題演奏
- (Ⅳ)・ポピュラー作品 演奏時間：5分程度
(自作・自編が望ましい)
・スケール…全調 (ピアノで演奏)
- (Ⅴ)・自由曲 (自作・自編に限る) 演奏時間：5分程度
・課題編曲演奏…コードネームなしメロディー課題
- (Ⅵ)・自由曲 (自作・自編に限る) 演奏時間：12分程度以内
編成は、ソロまたはデュオ
(共演者及び楽器は自由。ただし、本学学生・院生に限る)
- (Ⅶ)と(Ⅵ)の定期試験は実施しません。各担当教員の評価による。

●その他

●授業内容

(1年次)
基礎テクニック (タッチ、指の独立、脱力、ペダル奏法、エクスプレッションペダル) と読譜力を身につける。
クラシック音楽・ポピュラー音楽の基本的な理解。

(2年次)
基礎テクニックの向上。
クラシック音楽・ポピュラー音楽を更に研究。
自編曲・自作曲に挑戦。
モチーフ課題による即興演奏。

(3年次)
自編曲又は自作曲に取り組む。
自分の個性を活かした音楽表現を試みる。

(4年次)
それぞれの進路・個性を考え、より高い音楽表現を目指す。
電子オルガンを学んで身につけた音楽力を活かして、自由な表現を試みる。

科目名	ジャズ実技研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

基本的な楽器の演奏技法の習得。
ジャズの理論を学び即興を含んだ演奏能力、アレンジ能力を育成する。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽文化全般に関心を持ち、向上心を持つ者。
時間厳守。
個人レッスンにつき、遅刻欠席をする場合は事前に各担当教員にその旨を連絡する。

●試験方法及び成績評価方法

定期実技試験により評価する。
1学期間に於ける出席日数が3分の2に満たない場合は出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受けることは出来ません。

●その他

●授業内容

(1年次)
学生の個性、レベルを見極めて、主に基礎技術の向上、ジャズ理論の基礎を学ぶ。
演奏実技を通し、アンサンブルの基礎を学ぶ。

(2年次)
更なる技術向上を目指す。
Blues、スタンダードを中心とした曲を題材とする。

(3年次)
Blues、スタンダード曲に加え、ジャズオリジナル曲なども題材に含め、作曲、アレンジ等を学ぶ。

(4年次)
今まで身に付けた技術を駆使し、実践に即した演奏能力を身につける。
併せて卒業後の進路に沿った指導も行う。

科目名	ジャズ実技研究Ⅰ～Ⅷ（ヴォーカル）	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

基本的な発声練習をふまえ、スタンダードジャズのみならず多くのポピュラーソングを通して、歌詞を深く読みとり、音楽的要素を習得し、個々の特徴を生かした自由な表現力で歌う楽しさを知り、さらに曲の時代背景からミュージカル、映画等、幅広く興味を持ち、豊かな心を持ち合わせた表現者となることを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

45分の個人レッスン。
時間厳守。
欠席する場合は必ず事前に担当教員にその旨連絡をする。

●試験方法及び成績評価方法

春学期、秋学期に実技試験を行う。
評価は実技試験を重視し、日頃の授業態度、出席日数を考慮する。

●その他

●授業内容

（1年次）
基本的な発声練習。
（ストレッチ、腹式呼吸、表情筋トレーニング、音階練習等）
音楽の基礎理論をふまえ、スコア作成。
（コード、ハーモニー、リズム等の理解）
英語詩を読みとり、発音、アクセント等を身につける。
スタンダードジャズで主に4Beatの曲を選ぶ。

（2年次）
更なる基礎技術の向上を目指す。
4Beat以外幅広く曲を選択。

（3年次）
個人の能力に応じて音楽的表現、技術の更なる発展を目指す。

（4年次）
4年間の集大成として自分のステージが演出できる豊かな表現者となることを目指す。

科目名	卒業論文	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	指導担当教員	単位	4	年次	4

●授業科目の目標

これまでの勉学の結果を踏まえて、各自が選択した研究テーマに基づき、担当教員の指導の下、論旨の調った論文を作成することを目標とする。大学での研鑽の集成であると同時に、今後各自で自主的に研究テーマに取り組む力を養うこともねらいである。

●履修上の条件及び履修の方法

3年次秋学期期末において、研究テーマの概要を意識し、指導担当教員との打ち合わせ等により、履修の準備が進められていることが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

提出された論文に基づき、指導担当教員を含む複数の教員による口頭諮問を行うことにより、諮問参加教員の合議によって評価を行う。

●その他

テキストは、研究テーマの内容、及び研究の進捗状況によって担当教員との相談によって選定される。

●授業内容

研究テーマや担当教員の指導方針、履修者の事情によって授業の内容は異なるが、およそ、研究テーマに関する先行研究の成果の確認や関連資料の理解、テーマによっては必要なフィールドワークの実施とそこで得られたデータの整理や分析を通して、テーマの解明にいたる論旨を形成し、大学所定の書式に基づく論文として完成するための過程をたどる。

科目名	卒業研究（音楽教育）	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	指導担当教員	単位	4	年次	4

●授業科目の目標

これまでの勉学の結果を踏まえて、各自が選択した研究テーマに基づき、担当教員の指導の下、口頭での成果の発表が可能な論旨を作り上げることを目標とする。大学での研鑽の集成であると同時に、今後各自で自主的に研究テーマに取り組む力を養うこともねらいである。

●履修上の条件及び履修の方法

3年次秋学期期末において、研究テーマの概要を意識し、音楽教育コース担当教員との打ち合わせ等により、履修の準備が進められていることが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

口頭での成果の発表に基づき、発表に立ち会った指導担当教員を含む複数の教員による合議によって評価を行う。

●その他

テキストは、研究テーマの内容、及び研究の進捗状況によって担当教員との相談によって選定される。

●授業内容

研究テーマや担当教員の指導方針、履修者の事情によって授業の内容は異なるが、およそ、研究テーマに関する先行研究の成果の確認や関連資料の理解、テーマによっては必要なフィールドワークの実施とそこで得られたデータの整理や分析を通して、テーマの解明にいたる論旨を形成し、その成果を口頭で発表できるような状態に纏め上げるための過程をたどる。

科目名	卒業研究（音楽ビジネス）	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	指導担当教員	単位	4	年次	4

●授業科目の目標

インターンシップでの体験学習を具体的にレポートとしてまとめる。そして、卒業後の進路を社会状況と合わせ持って考察し、指針となるようにレポートとしてまとめる。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①ゼミ方式で授業を展開する。
- ②レポートの作成は、主にパソコンを用いてレポート内容を充実していく。

●試験方法及び成績評価方法

平常の授業に対する姿勢、努力などを基にレポートの内容も合わせて評価する。提出レポートは400字×10枚程度を目標とする。

●その他

●授業内容

- ① ガイダンス（ゼミ形式）
- ② 3年次のインターンシップの研修内容をまとめる。反省点なども含めて具体的にレポートする。
- ③ 4年次のインターンシップの研修内容をまとめる。反省点なども含めて、具体的にレポートにする。
- ④ 卒業後の進路も合わせて、社会での活動方法や活動内容をレポートとしてまとめる。

科目名	学内演奏／学内発表／学内作品発表	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

卒業演奏・卒業発表・卒業作品に先んじ、学部における学究的取り組みの中間的成果を公に示すこと。

●履修上の条件及び履修の方法

各実技科目の授業計画に基づく。

●試験方法及び成績評価方法

各実技科目の授業計画に基づく。

●その他

●授業内容

各実技科目の授業計画に基づく。

科目名	卒業演奏／卒業発表／卒業作品	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	4

●授業科目の目標

学部4年間の学究的取り組みの成果を公に対して示すこと。

●履修上の条件及び履修の方法

各実技科目の授業計画に基づく。

●試験方法及び成績評価方法

各実技科目の授業計画に基づく。

●その他

●授業内容

各実技科目の授業計画に基づく。

科目名	実技 A・B I～Ⅳ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

音楽学習の経験の幅を拡げ、深化するに足る研鑽対象を確立させるための基礎力を整えること。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽総合コースの学生以外は履修出来ません。

●試験方法及び成績評価方法

担当教員が評価する平常点、又は定期試験の点数により評価する。

●その他

●授業内容

各実技科目の授業計画に基づく。

※ピアノ・管楽器・弦楽器・打楽器・邦楽器・声楽・作曲・コンピュータミュージック・電子オルガン・ジャズの中から選択をする。

※実技A又はBの“Ⅳ”を修得後は「専攻実技Ⅴ～Ⅷ」を履修します。

科目名	ピアノ演奏研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

自分自身の音楽表現の確立。
作品への理解、内面の深みにふれる感性を育てる。

●履修上の条件及び履修の方法

個人レッスン

●試験方法及び成績評価方法

I～III 担当教員による評価。試験は行わない。
IV 修了演奏において認定。

●その他

●授業内容

<1年次>
各人の目標、研究テーマに基づいたプログラムを決定し、その作品の解釈、演奏を追求する。また、研究テーマ以外のさまざまな様式の楽曲、いろいろな時代の作品の研究にも取り組む。

<2年次>
各人の目標、研究テーマに基づいたプログラムを決定し、その作品の解釈、演奏を追求する。また、研究テーマ以外のさまざまな様式の楽曲、いろいろな時代の作品の研究にも取り組む。

科目名	管楽演奏研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

演奏曲それぞれの研究により、演奏者自身の考えを確率してゆく事、感性をさらに磨いてゆく。

●履修上の条件及び履修の方法

レッスンを受けるにあたり、しっかり研究をする事。

●試験方法及び成績評価方法

レッスンの内容や毎年行なっている発表会にて評価します。

●その他

●授業内容

<1年次>
楽曲の歴史、作曲家及び作曲年代における背景等を研究し、表現内容を深める事で、演奏の質を高めてゆきます。

<2年次>
修士演奏にむけて、プログラミング等考えながら、レパートリーを広げてゆきます。1年次の研究内容を演奏会という大きな課題へと進める事により、演奏とは何かという事を深く掘り下げます。

科目名	弦楽演奏研究 I～IV [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

●その他

●授業内容

(1年次)
学部生でいた間に習得しきれなかった事柄について反省し、基礎練習など基本的な内容のトレーニングをおこなって、技術を高める。
幅広い時代の作品やふだん接することの少ないジャンルにも親しみ挑戦する。

(2年次)
修士演奏にむけて譜読み、伴奏合わせをしながら、的確な演奏方法を学ぶ。

科目名	打楽演奏研究 I～IV [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

短所を是正し、長所を出来る限りのばす。

●履修上の条件及び履修の方法

特に指定しない。

●試験方法及び成績評価方法

30分～40分のレパートリーを修了試験に課し評価する。

●その他

●授業内容

(1年次)
学部で修得したことを更に深く研究し、演奏技術・表現力を完成度の高いものを目指す。

(2年次)
修士演奏に向けてマリンバ・パーカッションの演奏家としてのレパートリーを充実させる。

科目名	邦楽演奏研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

<箏>
最も古く、又最も音楽性の高い箏組歌。そして対極にある最も現代的で、将来古典曲として生き残るであろう名曲として価値の定まった現代曲を習得させる。この事によって、院修了後の演奏家としての出発を可能にするものである。

●履修上の条件及び履修の方法

個人レッスン。

●試験方法及び成績評価方法

<箏>
春期、秋期終了時に演奏会形式で採点する。

●その他

○テキスト（必携）
<箏>
《No.1.》
書籍名：秋風の曲、著者名：光崎検校、出版社：邦楽社
《No.2.》
書籍名：二面の箏のための嬉遊曲、著者名：清水脩
《No.3.》
書籍名：三つの断章、著者名：中能島欣一、出版社：邦楽社
《No.4.》
書籍名：雲井の曲、著者名：八橋検校
《No.5.》
書籍名：四季の曲、著者名：八橋検校
《No.6.》
書籍名：春三題、著者名：長沢勝俊、出版社：大日本家庭音楽会

●授業内容

（1年次）
院生として、又、演奏家としてⅠ～Ⅱ期間に可能な限り多彩な楽曲を習得させる最も音楽性の高い古典曲、又、現代曲の両極を中心に授業を進め、学部との相違点を明確にする。

（2年次）
院生として、又、演奏家としてⅢ～Ⅳ期間に可能な限り多彩な楽曲を習得させる最も音楽性の高い古典曲、又、現代曲の両極を中心に授業を進め、学部との相違点を明確にする。

科目名	声楽研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

声楽に於いて、まず個人差を別にして学部以上の力量を身につけなければならない。声は年齢と共に変化するので継続した研究が必要であり、あらゆる表現可能な発声の習得と共に作品を研究する。

●履修上の条件及び履修の方法

健康に気をつけ、ベストの体調で臨む。

●試験方法及び成績評価方法

平常点及び、大学院修士演奏試験。

●その他

●授業内容

（1年次）
学生の技術、能力向上に見合う作品を適宜検討しながら進める。

（2年次）
さらに深く研究する。

科目名	作曲研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

近代、現代作品を中心に、各自、特に研究を希望する課題に沿って、あらゆる角度からの総合的理論、分析を進め、最終的に修士作品（管弦楽曲）を作曲する。

●授業内容

担当教員の指導方針による。
2年は、修士作品の指導も含まれる。

●履修上の条件及び履修の方法

個人レッスン

●試験方法及び成績評価方法

修了作品による譜面審査。

●その他

科目名	コンピュータミュージック研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

学生個人の興味や資質を最大限に活かしながら、より広く柔軟に音楽を捉えたコンピュータサウンドを制作しうる能力を育成する。

●授業内容

<1・2年生>
従来の作曲法にとらわれない、プログラミング言語を使用したアルゴリズムミック・コンポジションによる作品の研究・制作。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽以外の表現分野をコンピュータサウンドに取り入れた作品の研究・制作。

●試験方法及び成績評価方法

制作した作品及び、研究計画への取り組み態度。

基礎的な研究とは異なり展開的な研究を主とするが、学生個人の研究テーマに応じて指導を行うため上記以外の内容の場合もあり得る。

●その他

科目名	電子オルガン研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

音楽家としての安定した演奏力・即興力、応用力を養う。
電子オルガン独自の音楽表現の他に、鍵盤楽器全般の知識・技術を研究する。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

平常点（課題への取り組み方）及び、大学院修士演奏試験。

●その他

●授業内容

(1年次)
基本テクニックの再確認とレベルアップ。
電子楽器・鍵盤楽器の可能性を考え楽曲に取り組む。

(2年次)
自編曲・自作曲作品の創作と演奏。
進路・個性を考え、音楽をより深く研究し、表現する。

科目名	器楽演習Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

ピアノという楽器での表現の可能性の追求。
テクニックの習得と豊かな音楽表現の追求。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

担当教員による評価。
定期実技試験は行わない。

●その他

●授業内容

それぞれの能力、目標に応じて話し合い、いろいろな時代の作品を取り上げながら、レッスンを進めます。

科目名	修士演奏／修士作品及び研究レポート／修士論文 [院]	形態	実技・演習	開講期	春・秋
担当教員	指導担当教員	単位	—	年次	2

●授業科目の目標

大学院での研究成果を公に対して示すこと。並びにその内容が大学院での研鑽の結果に相応しいものであるかを判定するための機会を公開すること。

●履修上の条件及び履修の方法

各指導担当教員の授業計画に基づく。

●試験方法及び成績評価方法

各指導担当教員の授業計画に基づく。

●授業内容

各指導担当教員の授業計画に基づく。

●その他